

大会名 Competition	平成26年度 第60回秋田県高等学校総合体育大会 バスケットボール競技
NO. M-1	Year Month Day Time 2014 年 6 月 10 日 13 : 10
場 所 Place	能代市総合体育館



秋田県高等学校体育連盟  
バスケットボール専門部

主審:Referee 久米 克弥 (秋田)  
副審:1stUmpire 佐藤 匠 (秋田)  
副審:2ndUmpire 小川 裕之 (秋田)  
テーブルオフィシャル:Table officials  
能代高校女子バスケットボール部

チームA 能代工業	24 1st 16 26 2nd 18 21 3rd 21 25 4th 25 OT	チームB 平成
96 ○		80 ●

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	長谷川	暢	30	3	7	7	5	4	×	伊藤	秀太	9	1	3	0	3
5	×	荒木	直	12	0	4	4	0	5	×	金子	湧聖	2	0	1	0	3
6	×	中村	碧杜	11	0	4	3	5	6	/	大山	将斗	10	0	3	4	2
7		渡邊	竜也	-	-	-	-	-	7	×	畑澤	大地	19	2	5	3	5
8	×	幸崎	竜馬	0	0	0	0	2	8	×	鈴木	尚輝	26	0	11	4	2
9	×	小室	望海	16	3	3	1	2	9	/	佐藤	恭平	6	2	0	0	3
10	/	斉藤	大輔	18	0	8	2	1	10	×	栗田	将弥	8	0	3	2	3
11		金久保	翔	-	-	-	-	-	11		壽松	敬正	-	-	-	-	-
12	/	猪狩	涉	9	1	3	0	1	12		横山	空	-	-	-	-	-
13		高祐	哉	-	-	-	-	-	13		三浦	杏太	-	-	-	-	-
14		盛賞	海翔	-	-	-	-	-	14		大日向	裕也	-	-	-	-	-
15		柴田	一真	-	-	-	-	-	15		藤原	貴史	-	-	-	-	-
16		植村	太一	-	-	-	-	-	16		鍵野	目斗	-	-	-	-	-
17		長濱	宏治郎	-	-	-	-	-	17		細井	楓季	-	-	-	-	-
18	/	藤原	健人	0	0	0	0	0	18		寺澤	駿希	-	-	-	-	-
19	/	長谷川	翔	0	0	0	0	1	19		遠藤	翼	-	-	-	-	-
20		高畑	陸	-	-	-	-	-	20		柿崎	真弥	-	-	-	-	-
21		藤谷	洋人	-	-	-	-	-	21		佐藤	優太	-	-	-	-	-
コーチ		佐藤	信長						コーチ		佐々木	信吾					
Aコーチ		栄田	直宏						Aコーチ		長崎	純一					
合 計				96	7	29	17	17	合 計				80	5	26	13	21

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* インドシュート 2P:2P\* インドシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は、46年連続51回目の優勝を狙う能代工と、初優勝を目指す平成の対戦となった。両チームともマンツーマンディフェンスでの立ち上がりとなった。先制したのは平成。#7畑澤がミドルシュートを決める。能代工もフリースローを確実に決め、序盤は互角の展開となる。双方激しいマンツーマンディフェンスをみせるなか、能代工は#4長谷川の3Pや#5荒木のフリースローで加点、平成は#8鈴木を中心にオフェンスを展開し、能代工24-16平成で第1ピリオドを終える。

第2ピリオドの序盤から能代工が持ち味のスピードあるオフェンスを展開し、#12猪狩の3Pや#4長谷川のレイアップで14点差になったところで平成がタイムアウト。その後も能代工の激しいディフェンスが続く、能代工は#10斉藤を中心に点数を重ねる。平成は#7畑澤の3Pやバスケットカウントで得点して点差を9点につめるが、その後得点伸びない。終了間際に平成の#8鈴木がゴール下のシュートを決めて50-34で前半が終了した。

第3ピリオドも両者激しいディフェンスで得点がなかなか決まらない。平成の#6大山がドライブから得点すると、能代工は#9小室が3P、#5荒木がジャンプシュートを決めて両者譲らず、残り4分40秒で平成がタイムアウト。その後、平成の#7畑澤がジャンプシュートを決めるが、能代工は#9小室のミドルシュート、#4長谷川の3Pと速攻からのバスケットカウントで連続得点し、点差が21点に広がる。終盤に平成が#8鈴木速攻や#7畑澤の3Pで加点し、このピリオドは21-21の互角の展開となり、71-55で第4ピリオドを迎える。

最終ピリオド、平成が#7畑澤のジャンプシュート、#10栗田のドライブと連続得点したところで能代工がタイムアウト。その後、能代工は#10斉藤がジャンプシュートとバスケットカウントを決めて17点差に広げる。追いつく平成は、#8鈴木速攻や#4伊藤の3P、#8鈴木速攻のフリースローで得点して点差を9点につめる。残り5分28秒で平成は#7畑澤がファウルアウトしたところでタイムアウト。その後、平成は#4伊藤がスティールから速攻を決めて79-72とする。しかし、能代工は#4長谷川がミドルシュート、フリースローを沈め11点差とする。その後も能代工は#10斉藤がリバウンドからのシュートを確実に沈めて加点する。終始走り合いとなったゲームは、リバウンドやルーズボールを得点につなげた能代工が96-80で制し、全県新人での雪辱を果たすと同時に、51回目の優勝を決めた。

文責 【 打矢 泰之 】

# 男子決勝

